

東日本大震災では、世界中から支援や励ましの声が届きました。仙台市の子どもたちは、それをどのように受け止めたでしょう。

1 世界へ向けて 感謝の歌

八幡小学校の6年生は、外国からの支援に感謝の気持ちを伝えるために、「Heroes 2011, Japan」という英語の合唱に取り組みました。

この歌は次のように始まります。

Thank you, friends …

(遠くにいる顔も知らない友達へ、今この大変なときに、思ってくれて行動してくれて、ありがとう)

また、次のような力強いメッセージでこの歌は終わります。

We will stand strong, again,

I, We, Japan

(きっとまた立ち上がってみせる わたし わたしたち 日本)

6年生115人は、「Heroes 2011, Japan」を歌い続ける中で、感謝の気持ちが強くなったと言います。

練習に取り組む姿が、世界130か国でしようかいはされました。6年生は「他の国で大きな災害があったら、今度はわたしたちが助けてあげたい。」「いち早くかけつけてくれた海外のボランティアの人に感謝の気持ちを伝えたい。」と合唱後のインタビューに答えていました。



歌の練習をする八幡小6年生

『Heroes 2011, Japan』
作詞:パトリック・ハーラン 作曲:秦万里子

2 仙台市小学生クロアチア共和国訪問団

「被災した子どもたちに、心のいやしと夢をあたえたい。」というクロアチア共和国の招待を受け、仙台市の小学生25名がクロアチアを訪問しました。クロアチアではニュースになり、どこでも温かくむかえられました。首相も宿舎に来て、はげましの言葉をかけてくださいました。感謝の気持ちでいっぱいになった子どもたちは、お返しに折り紙を折り、すずめ踊りとクロアチア語での歌をひろうしました。

参加した一人は「将来への夢を持つことができました。今度は、この感謝の気持ちを自分がだれかに伝えたいです。」と思いを語りました。



クロアチアを訪れた仙台市の小学生

? 考えよう

○人々の思いは国境をこえて、どこまでもつながっていきます。世界の一員として、わたしたちはこれからどのようなことができるか、考えてみましょう。

ALTの先生も子どもたちを応援

仙台市にはALTの先生が70名います。震災後に仙台に来た先生の一人にインタビューしました。

「わたしが仙台に来ると決まったときは、家族や友達の中には、反対する人もいました。でも、わたしはこわくありませんでした。日本の人々は、力を合わせてがんばっていることを知っていたからです。仙台では、英語を教えることはもちろん、ボランティア活動にも取り組みたいです。今は家族も友達も応援してくれています。」



仮設住宅で子供たちとゲームを楽しむALT